

第4次呉市長期総合計画及び呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 の振返りについて

1 第4次呉市長期総合計画の振返り

第4次呉市長期総合計画は基本構想と基本計画で構成されています。

基本構想では、地方分権改革の更なる進展に的確に対応し、自らが考え自らが行動する自立したまちづくりを行っていくため、八つの目指すべき方向性を掲げ、その実現に取り組んできました。

この度の第4次呉市長期総合計画の振返りについては、この八つの目指すべき方向性における主な取組と成果、その課題について検証するとともに、基本構想に示している土地利用構想の各ゾーンにおける主な実績についても合わせて記載しています。

また、呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振返りについては、次期長期総合計画の中で一体的に取り組むこととしているため、合わせてその成果等を記載しています。

(1) 目指すべき方向性の振返り

目指すべき方向性	1 地域協働の推進
主な取組と成果	<p>市民公益活動を担う人材の育成や財政的支援などにより、地域の実情に応じたまちづくりを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少や高齢化の進展に伴うまちづくりの担い手不足に対応するため、市民センターを拠点に地域内の各種団体の支援活動を行っている市民を、「まちづくりサポーター」として委嘱するなど地域活動に関わる新しい人材の発掘に取り組みました。 【まちづくりサポーター数 H22年度：6人⇒H30年度：25人】 地域住民による主体的なまちづくり活動を推進するため、地域住民自らが策定した地域まちづくり計画に基づく地域固有の課題解決や地域の活性化、にぎわいづくり等の事業が、円滑に進むよう支援を行いました。 【ゆめづくり地域交付金活用事業数 H28年度：254件、H29年度：237件、H30年度：218件】 都市地域から過疎地域などに移住して、地域協力活動を行う地域おこし協力隊の隊員を受け入れ、地域ブランドや地場製品の開発・販売・PR等の活動を支援し、受入地域の活性化と隊員の定住・定着を図りました。 【地域おこし協力隊員受入数（累計） 10人（H27～R元年度）】 【活動を終了した隊員5人のうち、3人が定住】
課題	<p>まちづくりの担い手不足が課題となる中、地域の個性や特色に応じたまちづくりを行っていくため、学生や外国人の参画を促進するとともに、地域おこし協力隊の更なる活用や多様な形で地域に関わる関係人口など、市外からの新たな担い手を創出することが重要となっています。また、新たな担い手の受入れを促進するため、現地でのつながりをつくる場の構築や地域の情報収集などをサポートする人材を育成し、スムーズな受入環境を整備していくことが重要となっています。</p>

目指すべき方向性	2 市民の「健康寿命」の延伸
主な取組と成果	<p>市民が心身ともに健康で元気な状態を維持できるよう、健康づくり施策を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地区自治会連合会等において、特定健診・がん検診の受診勧奨や健康講演会、ウォーキング大会などを開催し、運動の必要性など健康づくりへの意識向上を図りました。 <p>【健康づくり活動 H28年度：425回 H29年度：441回 H30年度：397回】</p> <ul style="list-style-type: none"> データヘルスを活用した多職種連携（医療や介護関係者等の連携）による地域総合チーム医療で生活習慣病の重症化予防に取り組み、人工透析への移行等、重症化の防止及び本人や家族の生活の質の維持・向上を図りました。 <p>【人工透析者数/国民健康保険被保険者数 H28年度：102人/48,792人（0.209%） ⇒H30年度：83人/44,250人（0.188%）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステム^{※1}を構築し、住民同士が支え合う地域づくりや地域包括支援センター^{※2}の支援強化、医療・介護関係者等による多職種連携の強化、認知症対策等に取り組むことにより、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくための環境を整備しました。 地域医療体制を確保するため、救急医療を担う公的病院への財政支援など、恵まれた医療環境の維持・確保に取り組みました。
課題	<p>市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる環境を整えるため、特定健診・がん検診の受診の促進や運動習慣の定着を図るとともに、データヘルスによる効果的な保健事業と介護予防を一体的に実施することが課題となっています。また、認知症などの支援や介護が必要な方及びその家族の生活の質を維持・向上させるため、地域全体で支援する地域包括ケアシステムなどの医療・介護事業等の多職種が連携する体制を強化・充実していくことが重要となっています。</p>

※1 地域包括ケアシステム：医療、介護、予防、住まい、生活支援などのサービスが継続的・一体的に提供され、住み慣れた地域で安心した生活を送ることができる地域の支援体制

※2 地域包括支援センター：市内8か所に設置され、社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員などの専門職員が在宅介護や高齢者福祉などのあらゆる相談に、保健・医療・福祉の面から総合的に応じ、支援を行う場所

目指すべき方向性	3 雇用の場の創出（産業育成，企業誘致）
主な取組と成果	<p>就職を理由とする若い世代の市外流出を抑制するため，市内での雇用の創出を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業・小規模企業の自助努力と創意工夫を地域社会全体で支援し，本市の発展につなげるため，呉市中小企業・小規模企業振興基本条例を制定しました。 ・ 産業振興のため，積極的な企業誘致・留置活動や市内企業の新製品・新技術開発支援などを行い，雇用創出・確保に取り組みました。 【産業団地への立地企業数（累計）：17社（H23～30年度）※苗代工業団地：完売】 ・ 販路の拡大を効果的・効率的に行うため，「販路拡大セミナー」を開催し，マーケティングや財務会計などの経営の基礎を強化し，事業者の経営力を養いました。 ・ 産業を支える人材を育成するため，実践型地域雇用創造事業^{*1}を活用して，雇用の拡大や人材育成等に関するセミナーの開催を支援するなど，担い手の育成・確保に取り組みました。 【実践型地域雇用創造事業による就職者数（累計）：753人（H24～30年度）】 ・ 「高校生と保護者のための企業ガイダンス」の開催を支援し，地元企業の概要や製品・技術を周知することにより，地元企業への就職を促進しました。 ・ まちのにぎわいづくりや空き店舗などの増加といった地域課題を解決するため，遊休不動産を新しい方法で再生・活用して，生まれ変わった不動産を核に，まちを連鎖的に変えていくリノベーション^{*2}まちづくり事業に取り組みました。 【リノベーションスクール事前講演会参加者：延べ277人（R元年度）】 ・ 市全体で起業家を支援する機運を醸成するため，呉市内での起業希望者からビジネスプランを公募し，市役所がクラウドファンディング^{*3}型ふるさと納税制度で，選定したプランに必要な資金を募集することで事業化を支援し，呉市での創業・起業を促進しました。 ・ 障害者の雇用促進と工賃向上を図るため，販路開拓に向けた取組とともに共同販売事業（シビックマーケット）などを実施しました。 【呉市内の雇用契約のない福祉的就労の平均工賃（月額） H27年度：12,772円，H28年度：13,376円，H29年度：14,528円】
課題	<p>地域産業の活性化と多様化を図るため，市役所・民間企業・関係団体など地域全体で，創業・起業を促進する機運を醸成するとともに，創業後の資金調達や経営などを支援する体制の充実が重要となっています。また，人材不足など地域課題を解決するため，多様な形態での働き方に対する意識醸成を行い，適切な人材マッチングが行われることが課題となっています。</p>

※1 実践型地域雇用創造事業：地域の実情に応じ，雇用創造効果が高いと国から認められた事業

※2 リノベーション：建物が持つ元々の性能以上に新たな付加価値を付けて再生させること。

※3 クラウドファンディング：特定の目的を達成するために必要な資金を，インターネット等を通じて不特定多数の人から調達する仕組み

目指すべき方向性	4 特色ある資源を活かした地域の活性化
主な取組と成果	<p>地域の活力低下やコミュニティの衰退が懸念されており、地域ごとに特色ある産業や地域の観光資源を活かして、観光振興や地域のにぎわいづくりを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の所得向上や農村地域の活性化を推進するため、呉産の酒米を使用したオール呉産の日本酒醸造を支援するなど、新たな地域ブランドの創出や、呉産品の販路拡大の支援などに取り組み、農家の所得向上と農水産品の産地育成・地産地消の推進を図りました。 【呉産の酒米を取り扱う酒蔵 H23年度：1社⇒H30年度：3社】 ・更なる販路の拡大や商品開発の参考とするため、首都圏等のバイヤーを招いた「オールクレ・クレコレバイヤーズ商談会」を開催し、小規模事業者等の販路拡大を支援しました。 ・農業や漁業を支える新たな担い手を確保するため、新規就農者総合支援事業や漁師研修などに取り組み、就業者の定着を図りました。 【新規農業就業者数（累計）：15人（H23～30年度）、新規漁業就業者数（累計）：22人（H23～30年度）】 ・観光・商業の活性化を図るため、新規出店事業者を公募し、選定した事業者の支援に取り組み、にぎわいの創出を図りました。 【申請件数（累計）：138件（H23～30年度）、選定件数（累計）：84件（H23～30年度）】 ・戦艦「大和」の潜水調査を行い、その成果を大和ミュージアムの企画展などで公開することで、大和ミュージアムの更なる魅力向上を図るとともに、二つの日本遺産を活用した呉の魅力発信を行うなど観光地としての魅力向上を図りました。
課題	<p>観光関連事業者だけでなく、幅広い層の人々が主体的に参加する組織が中心となって、地域の魅力をどう訴えるか戦略を練り、ブランディング^{※1}とマーケティング^{※2}に基づいて、地域全体の所得を向上させることができるような観光の振興が必要となっています。</p> <p>また、人口減少と高齢化が進展し、労働力が不足する中、農水産業従事者の収入増加とブランド力の維持・向上を図り、農水産業を持続可能な体制にしていくため、農業法人化や農地の大規模化の更なる促進が必要であり、労働力の省力化や収益性の向上に向けて、農水産業へのAI^{※3}やIoT^{※4}等の先端技術の活用が高まっています。</p>

※1 ブランディング：顧客や消費者にとって価値のあるブランドを構築するための活動

※2 マーケティング：消費者の求めている商品・サービスを調査し、供給する商品や販売活動の方法などを決定すること。

※3 AI：Artificial Intelligence（人工知能）の略称

※4 IoT：Internet of Things（モノのインターネット）の略称。あらゆるモノがインターネットと接続されることで、遠隔操作や管理、情報収集が可能となる。

目指すべき方向性	<p>5 都市機能の強化・充実</p>
主な取組と成果	<p>幹線道路網の整備や公共施設の整備、公共交通体系の再編など都市機能の強化・充実を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速交通体系へのアクセス強化を図るため、東広島・呉自動車道全線開通、休山新道4車線化、広島呉道路の4車線化及び呉平谷線（上二河から此原工区）などの整備促進に取り組み、渋滞緩和、定時性向上など幹線道路の強化・充実を図りました。 【一般国道487号警固屋音戸バイパス（H25年3月開通）、東広島・呉自動車道（H27年3月開通）、休山新道の4車線化（H31年3月完成）】 ・大規模地震や集中豪雨などの災害時に、防災拠点としての役割を果たす必要があるため、市役所新庁舎（H27年12月完成）及び消防局・西消防署新庁舎（R2年3月完成予定）を整備し、耐震性確保と機能強化を図り、市民の安全と安心の確保を進めました。 ・将来にわたり市民の移動手段を維持・確保するため、路線バス、生活バス等の公共交通機関の運行支援などを行い、公共交通の維持・確保に取り組みました。 【基幹バス 広電バス 11路線、生活バス 6路線及び4地区、地域主導型交通サービス 2地区】 ・呉駅周辺地域において、次世代モビリティ^{※1}やMaaS^{※2}など先端技術の導入を見据えながら、鉄道・バス・航路等の総合交通拠点として整備を推進するため、そごう呉店跡地の再生・駅前広場の再整備を中心とした総合開発に取り組んでいます。 ・呉市のブランド力の強化、都市イメージの向上を図るため、呉氏を活用した全国プロモーションや復興キャラ祭の開催、SNSによる積極的な情報発信等に取り組みました。
課題	<p>公共交通体系の再編や基幹バス・生活バス等の運行支援、次世代モビリティの導入等により、将来にわたり持続可能な交通体系を維持していくことが重要となっています。</p> <p>また、Society5.0^{※3}時代を迎えるに当たって、ビッグデータ^{※4}やAIなどを活用し、地域の課題解決を図り、新たな魅力ある都市を創造していくことが求められています。</p>

※1 次世代モビリティ：AI技術等を活用した自動運転、通信機能等を備えた移動手段

※2 MaaS：Mobility as a Service の略。バスや鉄道等の交通手段の検索・予約・決済を一連のサービスとして捉える考え方

※3 Society5.0：デジタル革新と多様な人々の創造・想像力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会

※4 ビッグデータ：従来のデータベース管理システムなどでは記録や保管、解析が難しいような巨大なデータ群

目指すべき方向性	<p>6 子どもたちの育成支援</p>
主な取組と成果	<p>次の時代を担う子どもたちを安心して育てることができるよう、子育て環境や教育環境の整備を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センター^{※1}「えがお」を開設し、母子保健コーディネーターによる母子保健や育児相談への対応など、妊娠から子育てまでの包括的な支援を行いました。 ・乳幼児等医療費助成の対象を、通院は未就学児までから小学校6年生までに、入院は小学校6年生までから中学校3年生までに拡大するなど、子どもの健やかな育成と保護者の経済的負担の軽減を図りました。 ・児童の健全な育成を図るため、放課後児童会の受入対象を小学校3年生までから小学校6年生までに拡大するなど、児童の健全な育成と子育て家庭の支援を行いました。 ・小学校から中学校へのスムーズな移行を実現するため、小中一貫教育を推進し、相互乗り入れ授業や小学校の一部教科担任制の導入などに取り組むことで、中1ギャップ^{※2}の解消と自尊感情や学力の向上につながりました。 ・小中学校施設の耐震化や普通教室への空調設備設置により、児童生徒等の安全・安心で快適な学習環境の確保に取り組みました。 <p>【小中学校施設の耐震化率95.8%（H30年度末時点）、 小学校への空調設備設置（H30年度完成）、中学校への空調設備設置（H29年度完成）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立呉高等学校において、生徒の学習への興味・関心を高め、分かりやすい授業や生徒の主体的・協働的な学びを実現させるため、ICT^{※3}機器を整備し、これを活用した教科指導等を実践しました。
課題	<p>仕事と子育てを両立し、子どもたちがより豊かに育っていける環境にしていくため、市役所、企業、地域がそれぞれの立場で子育てを支援する環境を整えていくことが重要となっています。また、Society5.0時代において、AI等と共存し、これを使いこなすための能力を育成するため、AIなどの先端技術を活用しながら、児童・生徒一人ひとりの学習進度や能力に応じた最適な教育を行うことが課題となっています。</p>

※1 子育て世代包括支援センター：妊産婦及び乳児の実情を把握し、地域の特性に応じて、妊娠・出産・子育てに関する各種相談や健康の保持・増進に関する包括的な支援を行う場所

※2 中1ギャップ：小学校6年生から中学1年生に進学した際に、新しい環境での学習や生活にうまく適応できないこと。

※3 ICT：情報通信技術の略称で、IT（情報技術）の概念を一步進め、通信コミュニケーションの重要性を加味した概念のこと。

目指すべき方向性	7 安全・安心なまちづくり
主な取組と成果	<p>呉市は、地理的特性から平成30年7月豪雨災害のほか多くの災害を経験してきており、市民の生命・財産等を守るため、道路、河川、砂防・治山施設等のインフラ整備や地域の防災力を高める取組を進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋りょう及びトンネルの長寿命化修繕計画を策定し、計画的かつ適切な維持管理に取り組むなど、市民が安心して利用できる安全な公共インフラの整備を進めました。 <p>【呉市橋りょう長寿命化修繕計画（H27年度）、呉市トンネル長寿命化修繕計画（H28年度）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に存在する急傾斜地崩壊危険箇所1,134か所について、崩壊防止工事を実施し、安全・安心な生活環境の確保に努めました。 <p>【崩壊防止工事実施箇所（累計） H22年度：726か所⇒H30年度：742か所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくりを進めるため、国土交通省が天応西条3丁目地区に築造する砂防ダム工事の工事用道路を市道として引き継ぎ、地域住民の生活道路及び避難路として整備するなど、安全・安心なまちづくりに取り組みました。 ・避難情報や不審者情報を地域住民や保護者へ迅速かつ正確に伝達するため、防災・防犯情報メールの機能改善・充実に取り組むなど、危機管理機能の強化を図りました。 <p>【防災・防犯情報メール登録者数 34,149人（H30年度末時点）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着して、平常時・非常時を問わず住民の安全・安心を守る役割を担う消防団の機能を強化し、効果的な救助・消火活動を行えるよう、装備品の充実に努めました。 <p>【H28年度：投光器40基 H29～30年度：活動服2,112着 R元年度～：ヘッドライト670個等】</p>
課題	<p>道路・橋りょう等の公共インフラの経年劣化による事故を防止するため、適切な維持補修等を進める必要があります。また、早期の避難行動を促すため、気象情報や避難情報、降雨量や河川の水位情報などの防災関連情報の伝達方法の見直しと情報の充実に努め、いつでもどこでも分かりやすく情報を入手できる環境を実現する必要があります。</p>

目指すべき方向性	8 地球環境への配慮
主な取組と成果	<p>地球規模での環境対策が求められており、廃棄物や地球温暖化への対策等、地球環境に配慮したまちづくりを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電システム等の設置に対する支援や家庭用燃料電池（エネファーム）の設置に対する支援、廃棄物の減量化や適正処理を進め、環境への負荷が少ない快適で魅力的な生活空間の創出に努めました。 ・周辺環境や景観に配慮した一般廃棄物最終処分場を整備して、地球環境に配慮したまちづくりに取り組みました。 <p>【一般廃棄物最終処分場（H26年度完成）】</p>
課題	<p>地球温暖化防止や廃棄物削減などの環境問題の防止・解決に貢献するため、市民や企業に対し、再生可能エネルギーの活用、再資源化レベルの向上や食品ロス削減などの取組を促進することが課題となっています。</p>

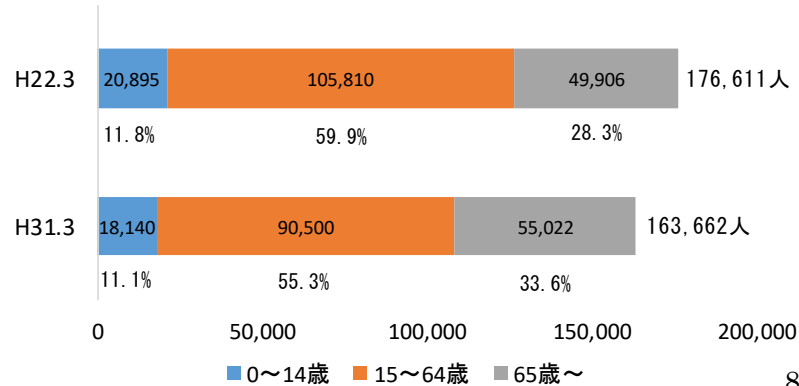
(2) 土地利用構想の振返り

沿岸部，内陸部，島しょ部の三つのゾーンにおいて，利用目的に応じて土地を有効活用することにより，活力ある都市の形成を図りました。

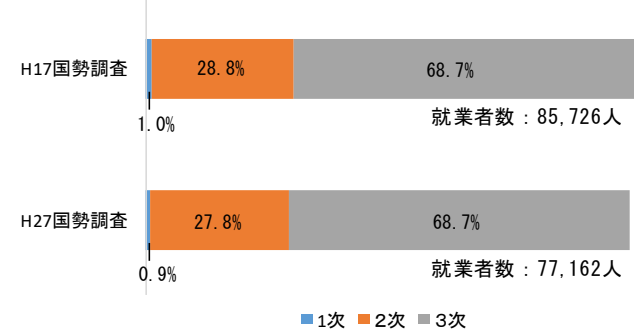
ア 沿岸部ゾーン「ものづくり産業と都市機能が集積するゾーン」

主な実績 (取組)	<p>企業誘致・留置や新産業の育成の推進により，産業の活性化や雇用創出に取り組みました。また，幹線道路の整備などによる交通体系の機能向上や消防局・西消防署新庁舎，呉市営プールの整備に加えて，総合交通拠点としての呉駅周辺地域総合開発を進めるなど，都市機能の強化・充実を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業立地の推進（H23～R2年度） <ul style="list-style-type: none"> 天応第2期埋立地：完売（H24年12月） 阿賀マリノポリス地区（累計）：9社立地（H23～30年度） ・リノベーションまちづくりの推進（R元～2年度） ・創業支援事業の推進（H28～R2年度） ・観光資源のブラッシュアップ（H28～R2年度） <ul style="list-style-type: none"> 戦艦「大和」のふるさと・くれブランド向上事業（潜水調査等）（H27・28年度） 日本遺産（鎮守府）を活用した呉の魅力発信事業（H29～R2年度） ・休山新道4車線化の整備促進（H31年3月完成） ・東広島・呉自動車道阿賀IC立体化の整備促進（H28～R2年度） ・広島呉道路の4車線化の整備促進（R元～2年度） ・呉平谷線（上二河から此原工区）の整備促進（H28～R2年度） ・天応市民センターの整備（H24年11月完成） ・市役所新庁舎の整備（H27年12月完成） ・消防局・西消防署新庁舎の整備（H28～R2年度） ・拠点スポーツ施設の整備（呉市営プールの整備等）（H30年度完成） ・JR新広駅の機能強化（H28～R2年度） ・呉駅周辺地域総合開発の推進（H29～R2年度）
--------------	--

年齢別（3区分）人口割合

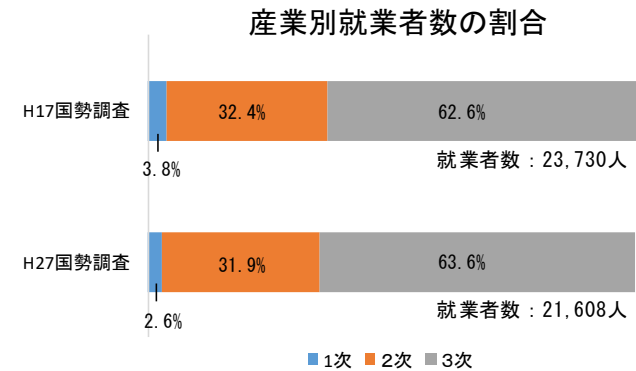
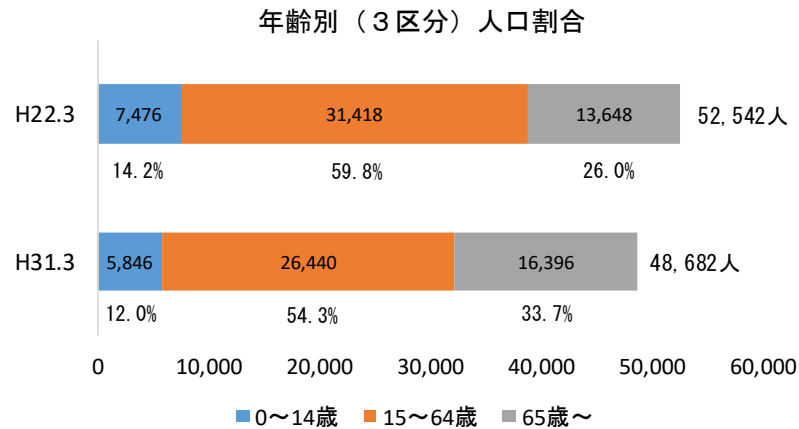


産業別就業者数の割合



イ 内陸部ゾーン「豊かな自然と都市が調和するゾーン」

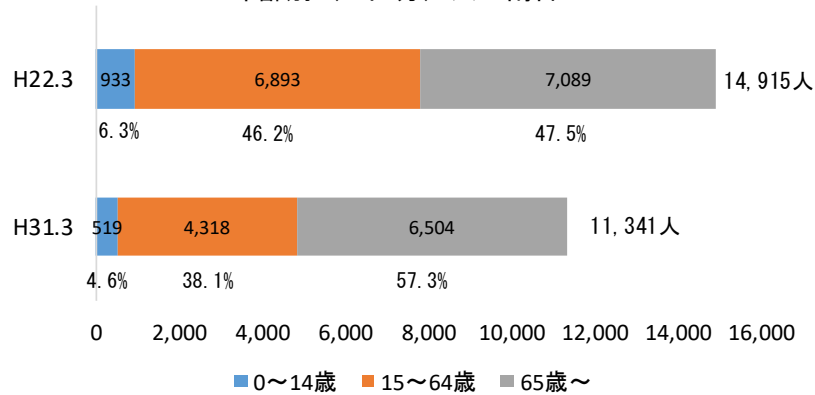
主な実績 (取組)	市民の癒やしや快適な居住の場として、呉市総合スポーツセンターを改修し、スポーツ施設の充実に取り組みました。また、東広島・呉自動車道の整備など幹線道路の整備により、沿岸部ゾーンとの連携強化を図りました。 <ul style="list-style-type: none"> ・企業立地の推進（H23～R2年度） 苗代工業団地（累計）：7社（H23～29年度）※完売 ・東広島・呉自動車道の整備促進（H27年3月完成） ・呉市総合スポーツセンターの改修（H30年度完成） ・農水産品のブランド化・6次産業化の推進（H28～R2年度） 共同利用できる酒米用乾燥調整施設を整備（H28年度） ・一般廃棄物最終処分場の整備（H26年度完成）
--------------	--



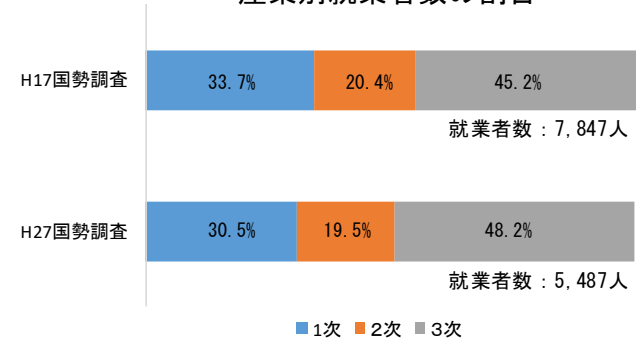
ウ 島しょ部ゾーン「瀬戸内の島の魅力を活用するゾーン」

主な実績 (取組)	新規農業・漁業就業者への支援など、主要産業である農業・漁業の振興や、県民の浜のコテージ整備などの観光資源のブラッシュアップにより、地域の活性化に取り組みました。また、公立下蒲刈病院への医療機器の整備や生活バス路線の維持などに取り組むとともに、地域おこし協力隊員の受入れによる地域の活性化を図りました。 <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源のブラッシュアップ（H28～R2年度） <ul style="list-style-type: none"> 「県民の浜」ブラッシュアップ事業（コテージ新設・改修）（H28・29年度） 「恵みの丘蒲刈」ブラッシュアップ事業（イチゴハウスの新設・ブルーベリー栽培設備の新設）（H30年度） ・一般国道487号警固屋音戸バイパスの整備促進（H25年3月開通） ・豊市民センターの整備（H26年度完成） ・医療機器の整備（公立下蒲刈病院）（H28～R2年度） ・基幹バス路線、生活バス路線、地域主導型交通サービスの運行支援（H28～R2年度） ・地域おこし協力隊員の受入れ推進（H27～R2年度）
--------------	---

年齢別（3区分）人口割合



産業別就業者数の割合



2 呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振返り

呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、「若年層の定着～若者が集い、にぎわうまちづくり～」を基本理念に据え、第4次呉市長期総合計画の施策のうち、「まち・ひと・しごと創生」に資する施策や目標を掲げたアクションプランとして位置付け、「働きやすさの向上」、「育てやすさの向上」、「暮らしやすさの向上」の三つの基本目標を掲げるとともに、大学や金融機関等の多様な主体との連携を図りながら、基本理念の実現に向けて取り組みを進めてきました。

なお、次期呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、次期呉市長期総合計画と一体的に策定することを踏まえ、第4次呉市長期総合計画と合わせて振返りを行いました。

(1) 基本目標の振返り

基本目標	1 働きやすさの向上（しごとづくり）
主な取組と成果	<p>産業や消費を支える若い世代の定着等による更なる活性化を図るため、呉の特性を活かした雇用創出に取り組みました。</p> <p>(1) 産業の競争力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家の所得向上や農村地域の活性化を推進するため、呉産の酒米を使用したオール呉産の日本酒醸造を支援するなど、新たな地域ブランドの創出や、呉産品の販路拡大の支援などに取り組み、農家の所得向上と農水産品の産地育成・地産地消の推進を図りました。 [再掲] 【呉産の酒米を取り扱う酒蔵 H23年度：1社⇒H30年度：3社】 産業振興のため、積極的な企業誘致・留置活動や市内企業の新製品・新技術開発支援などを行い、雇用創出・確保に取り組みました。 [再掲] 【産業団地への立地企業数（累計）：15社（H27～30年度）※苗代工業団地：完売】 戦艦「大和」の潜水調査を行い、その成果を大和ミュージアムの企画展などで公開することで、大和ミュージアムの更なる魅力向上を図るとともに、二つの日本遺産を活用した呉の魅力発信を行うなど観光地としての魅力向上を図りました。[再掲] <p>(2) 人材の発掘・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業を支える人材を育成するため、実践型地域雇用創造事業を活用して、雇用の拡大や人材育成等に関するセミナーの開催を支援するなど、担い手の育成・確保に取り組みました。[再掲] 【実践型地域雇用創造事業による就職者数（累計）：389人（H28～30年度）】 市全体で起業家を支援する機運を醸成するため、市内での起業希望者からビジネスプランを公募し、市役所がクラウドファンディング型ふるさと納税制度で、選定したプランに必要な資金を募集することで事業化を支援し、呉市での創業・起業を促進しました。 [再掲] <p>(3) 情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「呉の企業情報提供事業」及び「呉の産業魅力紹介事業」を実施し、呉の産業（企業）の魅力や企業情報の周知を図り、地元企業への就職を促進しました。 【呉市内に就職した地元高校生の割合 H29年3月卒業者：53%、H30年3月卒業者：61%、H31年3月卒業者：57%】

課題	<ul style="list-style-type: none"> 観光関連事業者だけでなく、幅広い層の人々が主体的に参加する組織が中心となって、地域の魅力をどう訴えるか戦略を練り、ブランディングとマーケティングに基づいて、地域全体の所得を向上させることができるような観光の振興が必要となっています。また、人口減少と高齢化が進展し、労働力が不足する中、農水産業従事者の収入増加とブランド力の維持・向上を図り、農水産業を持続可能な体制にしていくため、農業法人化や農地の大規模化の更なる促進が必要であり、労働力の省力化や収益性の向上に向けて、農水産業へのAIやIoT等の先端技術の活用が高まっています。[再掲] 地域産業の活性化と多様化を図るため、市役所・民間企業・関係団体など地域全体で、創業・起業を促進する機運を醸成するとともに、創業後の資金調達や経営などを支援する体制の充実が重要となっています。また、人材不足など地域課題を解決するため、多様な形態での働き方に対する意識醸成を行い、適切な人材マッチングが行われることが課題となっています。[再掲] 							
目標	指標	目標	単位	H27	H28	H29	H30	累計
	20～30歳代の「仕事」理由の転出超過数	3分の2改善 (H25：△265→R元：△90)	人	△153	△203	△591	△334	—

基本目標	2 育てやすさの向上（ひとづくり）							
主な取組と成果	<p>子どもと子育て世代でにぎわうまちを創り出すため、子育て・子育てしやすい環境づくりに取り組みました。</p> <p>(1) 結婚から妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代包括支援センター「えがお」を開設し、母子保健コーディネーターによる母子保健や育児相談への対応など、妊娠から子育てまでの包括的な支援を行いました。[再掲] <p>(2) 子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の健全な育成を図るため、放課後児童会の受入対象を小学校3年生までから小学校6年生までに拡大するなど、児童の健全な育成と子育て家庭の支援を行いました。[再掲] 乳幼児等医療費助成の対象を、通院は未就学児までから小学校6年生までに、入院は小学校6年生までから中学校3年生までに拡大するなど、子どもの健やかな育成と保護者の経済的負担の軽減を図りました。[再掲] <p>(3) 教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校から中学校へのスムーズな移行を実現するため、小中一貫教育を推進し、相互乗り入れ授業や小学校の一部教科担任制の導入などに取り組むことで、中1ギャップの解消と自尊感情や学力の向上につながりました。[再掲] 							
課題	<ul style="list-style-type: none"> 仕事と子育てを両立し、子どもたちがより豊かに育っていける環境にしていくため、市役所、企業、地域がそれぞれの立場で子育てを支援する環境を整えていくことが重要となっています。また、Society5.0時代において、AI等と共存し、これを使いこなすための能力を育成するため、AIなどの先端技術を活用しながら、児童・生徒一人ひとりの学習進度や能力に応じた最適な教育を行うことが課題となっています。[再掲] 							
目標	指標	目標	単位	H27	H28	H29	H30	累計
	年間出生者数	H25 : 1,717 → R元 : 1,800	人	1,588	1,506	1,406	R2.3 公表予定	—

基本目標	3 暮らしやすさの向上（まちづくり）																
主な取組と成果	<p>多くの人に定住の地として選ばれる都市となるため、多世代がにぎやかに暮らせるまちを創り出す取り組みを行いました。</p> <p>(1) 総合的な定住サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 定住・移住支援についての総合的なサポート体制を充実するため、住宅政策課内への定住サポートセンターの設置や若年層や移住者への住宅取得支援を行うなど、定住・移住支援の促進を図りました。 <p>(2) 定住・移住促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家の流通を促進するため、空き家バンクへの登録（売却・賃貸）の働き掛けに取り組みました。 【新規利用登録者数 H27年度：49人⇒H30年度：135人、成約件数（累計）：93件（H27～30年度）】 <p>(3) 生活環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地区自治会連合会等において、特定健診・がん検診の受診勧奨や健康講演会、ウォーキング大会などを開催し、運動の必要性など健康づくりへの意識向上を図りました。[再掲] 【健康づくり活動 H28年度：425回 H29年度：441回 H30年度：397回】 地域包括ケアシステムを構築し、住民同士が支え合う地域づくりや地域包括支援センターの支援強化、医療・介護関係者等による多職種連携の強化、認知症対策等に取り組むことにより、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくための環境を整備しました。[再掲] 将来にわたり市民の移動手段を維持・確保するため、路線バス、生活バス等の公共交通機関の運行支援などを行い、公共交通の維持・確保に取り組みました。[再掲] 【基幹バス 広電バス 11路線、生活バス 6路線及び4地区、地域主導型交通サービス 2地区】 																
課題	<ul style="list-style-type: none"> 移住希望者が安心して他都市から移住できるよう、希望者の目線に立った移住関連情報の提供や、移住先での情報交換・交流ができる場の提供、移住者同士をつなぐ交流ネットワークの構築など、きめ細やかにニーズに対応するための環境の充実が重要となっています。 市内外の新婚・子育て世帯や定住・移住希望者が、住宅を買いたい、借りたいと思える環境を整えるため、交通や買い物等、生活の便利な地域にマンションや宅地などの分譲・賃貸を促進させることが課題となっています。 公共交通体系の再編や基幹バス・生活バス等の運行支援、次世代モビリティの導入等により、将来にわたり持続可能な交通体系を維持していくことが重要となっています。[再掲] Society5.0時代を迎えるに当たって、ビッグデータやAIなどを活用し、地域の課題解決を図り、新たな魅力ある都市を創造していくことが求められています。[再掲] 																
目標	<table border="1" data-bbox="342 1281 2089 1457"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>目標</th> <th>単位</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>呉市を住みよいと感じる市民の割合</td> <td>H26：70% → R元：80%</td> <td>%</td> <td colspan="4">(R元調査予定)</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	指標	目標	単位	H27	H28	H29	H30	累計	呉市を住みよいと感じる市民の割合	H26：70% → R元：80%	%	(R元調査予定)				—
指標	目標	単位	H27	H28	H29	H30	累計										
呉市を住みよいと感じる市民の割合	H26：70% → R元：80%	%	(R元調査予定)				—										

(2) 呉市人口ビジョンの振返り

呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたり、国勢調査を基に、呉市の人口動向の分析や市民の希望を実現する施策を実施することで、令和22年において、社人研^{※1}の推計よりも約2万人押し上げることを目指した人口ビジョンを策定しました。

この人口ビジョンでは、令和2年度の人口を約22万2千人と推計していましたが、住民基本台帳の人口推移を基にした令和2年度国勢調査人口の推計では、約21万5千人となり、平成27年度時点の推計値を約7千人下回ることが見込まれています。

	H 2 2	H 2 7	R 2	R 7	R 1 2	R 1 7	R 2 2
呉市推計（H22年国勢調査を基にした独自推計）	239,973人	230,848人	222,196人	212,525人	202,368人	192,598人	183,597人
社人研推計（H22年国勢調査を基にした推計）	239,973人	227,459人	215,077人	201,752人	188,206人	174,794人	161,954人
国勢調査	239,973人	228,552人	速報値 R3公表予定				

※1 社人研：国立社会保障・人口問題研究所